

いこる草

津村明子



ヒゴスミレ

このところの新聞、週刊誌はNHKの新会長、^{もみいかつと} 舩井勝人氏の話で持ちきりですが、私が29年間働いた職場が「NHK大阪放送局」なので、悲しくなったり、腹を立てたりしています。

1959年(昭和35年)の入局で、まだラジオ放送だけの時代です。テレビの実験放送が始まったばかりでした。配属は「教育部」で、<主婦日記>料理・裁縫・育児・生け花などの実用番組、<婦人の時間>有名人のトークやインタビュー、読書案内などの教育・教養番組を担当しました。事前に出演交渉をし、アナウンサーと一緒に出演者を訪問して打ち合わせ、放送日にスタジオから生放送するという手順です。まだ録音テープのなかった時代でした。「教育部」は50人ほどの部で、女性は5人しかおらず、女性アナウンサーは大阪放送局に2人しかいませんでした。

放送番組は「全国放送」と「ローカル放送」があり、「ローカル放送」は近畿の2府4県向けに大阪放送局から出し、「全国放送」は東京から出していました。

当時から会長は外部から来るのが普通で、内部昇格が待ち望まれていました。たまたま内部の人間が会長になると、人員削減など合理化の役目を負わされることが多かったように思います。

会長と職員の間にはどうかというと、地方局の職員は全く会長の顔も知らず、一般の会社でやるような年頭のあいさつもなく、どんな人物なのかわかりませんでした。今回のように新聞各社の紙面や、テレビ局各社に顔が出るのは初めてです。

3月15日の朝日新聞によると、会長就任記者会見での「戦争と慰安婦」についての発言その他に、読者から3月13日までに約3万2300件の声が寄せられ、そのうち2万8千件が批判、6千件が肯定的意見だったということです。

今、大阪市長のやり直し選挙に出ようとしている橋下徹氏と同趣旨の発言で、まったくやりきれない思いをしています。

2014年3月15日
つむら あきこ (いこる 代表)

いこる草

津村 明子



ヤブカンゾウ

「働く女性の人権センター いこ☆る」が10周年を迎え、会員の皆さまとともに、「これからも、もう10年がんばっていかねば」と決意を新たにしています。

私も来年は80の大台に乗りますので、皆さまの足手まといにならないように気を付けたいと思っています。

それにしても、このところの安倍首相の憲法無視の政策は腹立たしい限りです。9条を中心とした平和憲法のおかげで、日本は世界の国々とこれまで友好的にやってこれました。

私と同世代の多くの人たちは、「太平洋戦争」で親やきょうだいを亡くし、自らもすさまじい戦禍を被りました。私も国民学校5年生の時（昭和20年）、阪急塚口駅の近くに住んでいて、B29（米の攻撃機）の空爆を受け、九死に一生を得ました。たった5分ほどで炎上してしまった我が家。生まれて12日目の赤ん坊（弟）を抱いて、はだして逃げてきた母に自分の下駄を譲りました。すさまじい爆音に空を見上げると、そこには空はなく、B29の真っ黒な機体がありました。道路には六角形の筒型の焼夷弾がたくさん突き刺さって火を吹き、倒れて動かない人、腕をもがれた幼女を抱えて泣き叫ぶ母親、まったく地獄絵そのものでした。

父が近所にある会社の同僚の家に交渉して、2日間大人3人、子ども3人の家族をかくまってもらいました。2日後電車が動き、母と子ども3人は、芦屋市の母の姉の家に避難し、父と祖母は親の実家の石切（近鉄奈良線）に逃れました。

その後、母と子ども3人は母の実家の南海高野線の橋本に落ち着きました。田舎暮らしはとても楽しく、紀ノ川で水泳を覚え、秋の稲の取り入れ時には学校から農家に手伝いに行きました。柿はどこのおうちのものでも食べ放題。また毎日のように和歌山港から大阪へ向かう米軍のジープが通り、子供たちにチョコレートをくれました。もらったチョコは次の日学校に持っていき、カミソリの刃で薄く切り、みんなで食べました。

翌年の夏、やっと京都市内に家を持つことができ、久しぶりに元の家族と暮らすことになりました。

空爆で家を焼かれてから1年3ヵ月ほどの離散生活の日々でしたが、私にとってはまたとない試練の年月でもありました。

2014年6月15日

つむら あきこ（いこる 代表）

いこる草

津村 明子



安倍改造内閣が9月3日に発足しました。女性閣僚が5人起用されたことについて、女性は65.0%が評価し、男性の63.1%を上回りました。その他、安全保障法制、女性活躍、地方創生の各担当相について「評価する」と回答した女性はすべての点で男性を上回りました。女性閣僚の今後のお手並みを拝見することにいたしましょう。残念ながら安倍の女性抱き込みの目論見は見事に当たりましたね。

私が今一番関心を持ち、心配でもあるのは、日本の人口減少についてです。1990年（平成2年）の日本の「合計特殊出生率」（1人の女性が生涯に産む子どもの数）は1.57人で、過去最低となり、「1.57ショック」という言葉までうまれました。日本に本格的な少子化が始まった年でした。以後、出生率は徐々に下降し、今後の推移は不明です。

人口が安定する状態になるには、日本中の女性が2.07人産まなければならないそうです。

今年に入って、日本の人手不足が急を告げています。私の日常生活からもいろいろなことが見えてきます。ともだちと会ったり、会合のあとなど、ビールを飲みに行くことが多いのですが、最近、お店の様子が変わりました。30人ほどは入れるお店でも、板前さんが1人、お運びさんが1人というところが増えてきました。

「コンビニ」や「スーパー」でも店員さん不足で、レジの半分が閉鎖されたりしています。人手不足もここまで来たのかと、心配でなりません。

9月14日 朝日新聞

教員採用 冬の気配 公立小中学校の教員採用 狭き門に

9月15日 読売新聞

ママ世代74%労働力に、過去最高

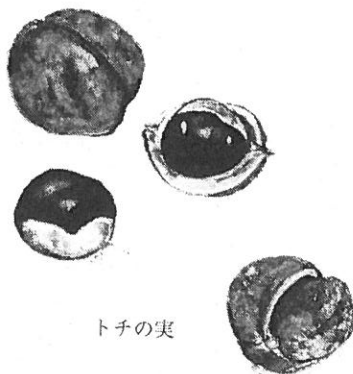
女性が働く環境を整備しないでいて、今になって騒ぎたてるなんてまったく理不尽極まりありません。

2014年9月15日

つむら あきこ（いこる 代表）

いこる草

津村 明子



トチの実

「第47回衆議院選挙」が12月2日に公示され、12日間の論戦ののち、14日に投開票が行われました。

安倍首相は、「この選挙は、アベノミクスが問われる選挙だ」とし、「地方創生を進めていきたい」「デフレ脱却のチャンスを手放すわけにはいかない」と、政権への再度の支持を国民に求めました。

察するところ、安倍政権が起用した女性閣僚の、地元でのお金に関わる不正事件などや、経済・安保・原発など争点をかかえ、外交（北朝鮮拉致問題）の停滞なども加わり、改めて国民の支持を確保することが狙いだったのでしょう。

不意打ちの解散で野党は態勢が整わず、12月14日の投開票の結果、連立を組む自民・公明の議席は326と、3分の2を維持する結果となりました。それにしても野党各党の不振は目に余るものがあります。絶えず、次期政権をめざして、政策を研ぎ澄まし、人材を養う努力が必要なのに。

日本のさし迫った問題は少子高齢化、あらゆる職場での雇用平等（男女平等・正規非正規問題）などです。老親の介護のため、職場を去る人も増えてきました。

国の内外をよく観察して、必要な政策をスピーディーに実施できる政権を私たちは望んでいます。今回の投票率は52%前後、戦後最低の前回59.32%を下回りました（朝日新聞推計）。

2014年12月15日

つむら あきこ（いこ☆る 代表）

いにる草

津村明子



しゅんらん

ドイツのメルケル首相が3月9日、7年ぶりに来日されました。
世界中の女性政治家の中で、私が最も尊敬している人なので、日本のマスコミがどう取り上げるのか、たいへん興味と期待を持っていました。

詳しい記事を書いたのは、「日経新聞」と「朝日新聞」だけで、他の新聞は冷淡でした。少し前に来日した米首相夫人は、どの新聞もファッションや訪問先を派手に記事にしていたのと対比的です。

週刊誌は、全くメルケルさん訪日は取り上げませんでした（何を恐れていたのでしょうか）。

私がなぜメルケルさんびいきかという、第二次世界大戦（太平洋戦争）で、日本、ドイツ、イタリアが3国同盟を組み、結果として大敗北を招いたにもかかわらず、ドイツは政治的にも経済的にも立ち直って、EU（欧州連合）の盟主となり、全ヨーロッパを牽引していること、訪日前に発表した「ビデオ声明」で、4年前の「福島第一原発事故」を振り返り、それまでドイツでは「稼働延長」することにしていた原発の停止を即断、「2022年までに「原発全廃」」としたことです。

「福島の実験から言えるのは、安全が最優先ということ」と断言。脱原発や再生可能エネルギーの重要性を強調し、「日本も共に、この道を進むべきと信じる」と述べました。

また安倍首相との共同記者会見では、「過去を総括することが和解の前提になる」と述べ、日本の対中韓への対応に注文を付けました。首相が8月に発表する「戦後70年談話」についての要請とみられます。

2015年3月20日
つむら あきこ（いこ☆る代表）

いこる草

津村 明子



キツリフネ

今、国会では「安全保障法案」の審議が続いています。政府案に対しては、政府推薦の学者さんの中からも「違憲だ」との声が上がり、国会審議の期間も大幅に延長されました。太平洋戦争終結から70年、私は今年80歳になりました。10歳の時、広島と長崎に「原子爆弾」が落とされました。それまでも大都市のほとんどが焼土となり、1945年8月15日に天皇の戦争終結宣言のラジオ放送でやっと地獄から解放されたのでした。

日本が太平洋戦争に突入したのが1941年（昭和16年）12月8日、ハワイの真珠湾攻撃から始まりました。それまでに朝鮮半島と中国の満州を植民地化し、世界から非難的になっていました。太平洋戦争勃発時は6歳でした。小学校が「国民学校」になり、教科書の内容もすっかり変わりました。それまでの1年生の教科書は「サイタ、サイタ、サクラガサイタ」で始まりましたが、新教科書では「アカイ、アカイ、アサヒ」となりました。日の丸の旗を印象づけるためだったのでしょう。

すでにヨーロッパでは、1939年にドイツがポーランドに進撃して第2次世界大戦が始まっており、翌1940年には日独伊三国同盟が調印されました。

巷では日本空軍の青年兵である予科練習生をうたった「予科練の歌」が大流行。私の学校では毎朝、朝礼があり、軍隊調の行進をしてお立ち台に立つ校長に「団長殿に敬礼!! カシラ右!!」とあいさつしました。女生徒はスカート禁止でもんぺ姿、物資不足で運動靴がなくなり、ゲタ履き通学でした。防空頭巾は必需品で座布団と兼用でした。

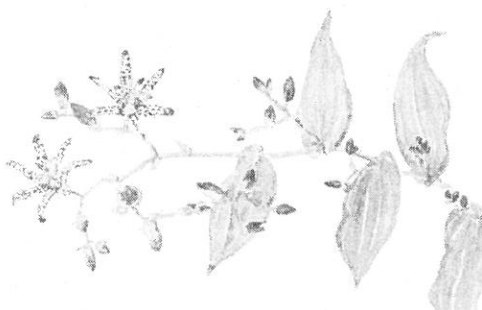
戦争が進むと、だんだん戦死者（出征兵士）が増え、毎日、国鉄の駅まで「英霊迎え」に行くようになりました。校庭は段々畑に変わり、イモなどを植えました。全部先生が持って帰ってしまい、私たちの口には入りませんでした。

5年生になった6月15日、ついに自宅が「B29」の空襲を受け焼け出されてしまいました。「焼夷弾」です。防空壕に入っていた私は火と煙にむせながら、持っていた本で火の粉を払い、壕の外に這い出ることができましたが、真っ赤な炎に包まれ焼け落ちていく我が家を目にしたときの悲しみは忘れられません。

後日、NHKの放送番組に出演いただいた関西大学の先生が、阪神間に来襲した敵機のすべてを調べ上げておられると聞き、研究室にお邪魔しました。先生は「6月15日ねえ。あれは尼崎の工場群を爆撃した後で、弾が余ったんや。重いもんは捨てていこということで住宅地に捨てていったんやと思う」ということでした。

2015年6月20日
つむら あきこ（いこ☆る代表）

いこる草



ホトトギス

津村明子

安倍首相が9月9日に自民党総裁で再選されたのを受け、17日の衆院本会議で「安税法案」を採決し、成立させる方向で調整に入る予定ですが、この原稿を書いている9月15日深夜では進展していません。連日連夜、国会を取り囲む反対デモを首相はどのように受け止めているのでしょうか。

この他にも、目に余る悪法の準備が新聞や雑誌で告発されています。その一つは、8日に発表された「妊娠適齢期」についての高校生向けの副教材です。

30歳になると妊娠しにくくなるとウソをつき、事実とは反対の数値に改ざんもされていました。資料を提出した「日本産科学会」の理事長も誤りを指摘しています。

少子化がますます進む現在、そのほんとうの原因を探って対策を立てるべきなのに、何という愚かな行為なのかと驚くばかりです。これから結婚する人たち（男女ともに）にとって、子育てが重荷になっている現実に対処すべきなのに。

もうひとつ、わたしが腹を立てているのが、9月11日の各新聞で報道された「消費税増税分2%の還付案」。自民・公明両党で協議され、2017年4月から税率を8%から10%に引き上げるのに合わせて、酒を除く飲食材や外食費の2%分を消費者に戻す「還付制度」についてです。

「日本型軽減税率制度」と位置づけ、大筋で合意に至っています。まもなく個人に配布される「マイナンバーカード」をお店の機械にかざすと、2%分が消費者の指定する銀行口座に戻ってくるという仕組みです。

「マイナンバーカード」を常に持っていないと買い物ができない、国民みんなが銀行口座を作らないといけなく、店の読み取り機設置やその他の手続きなど、巨額の費用をかける必要があるのでしょうか。

2015年9月15日

つむら あきこ（いこ☆る代表）